

---

奏

雪音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

奏

### 【コード】

N0877B

### 【作者名】

雪音

### 【あらすじ】

切ない物語です。大切な人がいる人に読んでほしいです。

## アネモネの花に込めて

大丈夫

僕が君を守るといったのは

事実であつて

ウソなんかじゃ

ないから

だつて僕は

宮殿専属歌手

この声で

いつまでも

君を

守るよ

この手を絶対

離さない

僕には君が必要なんだ。たとえ、君が僕を必要としてなくても僕は絶対に君を必要としているんだ。

だつて、僕を助けたのは、君だけだつて事。

こんな事、知っているのは酒屋の名坂さんだけなんだけど。

君は知らないんだけど。

僕には君が必要なんだよ。

僕は小さいころから歌がものすごくうまかつた。それを見込んだ酒屋のおじさんの名坂さんが酒屋で歌を歌って働かないかと話を持ちかけてきた。

そのうまい話に母親の真夏羽里奈は飛びついた。

そして僕は、いい

「売り物」

になった。

しかし、羽里奈は酒乱だったので、歌い終えたあとは何かしらいちやもんをつけて文句を言った。

「何で歌詞を間違えたんだよ！この愚図！」

「ご……ご……ごめんなさい」

「謝るぐらいなら最初から間違えないようにしろ！このとんまが！」

このあと母親にめっちゃめっちゃに殴られることは、言うまでもない。

お酒の

「ピル」

が入っていたビンで僕を思いっきり殴った。

毎日、毎日。

毎回とめてくれたのは名坂さんだった。

本当に優しい人で、僕はとても好きだ。

そして、酒屋で働いて一週間足らずで母は死んだ。

そりゃあ、まいにち

「ピル」

を5本も三年間飲んでいたら、

死ぬだろう。

悲しくなんて無かった。

むしろ嬉しかった。

そして僕は、名坂さんに引き取られた。

この日から、僕の人生は、幸せへと猛スピードで進みだした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0877b/>

---

奏

2010年10月26日06時03分発行